

目的 第2報より高齢者の体型特性が明らかとなったが、衣服製作への導入には、この線的情況と、さらに形態的要素の解明が必要であると考ふる。従來の身体計測法では、こうした体型特性を包含したパターンを作成することは難しい。従って、高齢者の体型をモアレ法より復元し、それを基体とした体表展開図より、体型別パターンの作図法を検討するとともに高齢者の身体計測法設定のための一資料を得ることを目的とした。

方法 前報より得られた分類タイプの代表者6名について静止時・上肢前挙時のモアレ写真から復元像を作成した。雲竜紙法により体表を採取し、最後突点を基点として5cm間隔に矢状・水平基準線を入れて平面展開した。できた間隙により体型特徴および動作時の形態変化の状態をとらえた。一方、復元像の体表を三角図形で分割し、その三辺の測定値を用いて胸部後面の平面作図の方法を検討した。

結果 1) 静止時体表面の体型別特徴は後正中線の形状と肩部におけるピース間の間隙に認められた。2) 動作による変化は後面が半球状を示すタイプでは、肩部のピース間に間隙量の減少がみられ、他のタイプでは位置の移動にのみ変化が認められた。3) 体型別パターンを作成するには、最後突位と後正中線との交点を頂角とした三角形により5区分して平面に展開することが有効である。4) 身体計測値を用いて後面のパターンを作成するには、最後突位と後正中線の交点から後腋点・肩峰点・頸側点・第7頸椎点・後正中線におけるW.L.位・腋点直下位におけるW.L.位のおのおのの距離を基本計測値として採取すればよいことがわかった。